



在京古高同窓会会報 第26号

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂110号 信陵会館内 在京古高同窓会事務局 (03) 3462-1225 FAX (03) 5489-1350 発行責任: 春田 龍 編集長: 千坂 孝天 印刷: (株)ケーヨー

年頭ご挨拶

会長 高橋 淳夫



二十一世紀があげました。在京古高同窓会の皆様おめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。新しい世紀の新しい年を迎え、何か希望と期待に心が躍らないでもありませんが、現実には国際情勢の我が国の実情共々樂觀は許されないと気持ちを引き締めております。大会長伊藤宗一郎先生の後をお引受けしただけに、重責を噛みしめている処でもございます。

憶えば伊藤先生には、国会議員、国務大臣、衆議院議長と国事多難、激務にも拘らず、二十年を超える永きに亘り会長職を続けて頂きました。お陰をもちまして同窓会は大きく発展致しました。同窓会報「室雪」の創刊を始め、数々のご功績は枚挙に遑ありません。近年だけでなく四校合同同窓会の発足、古川市の高校四校の在京同窓生が一室に集まり、郷土に思いを馳せ、親睦の実を盡す催しは全国に類を見ないことでしよう。気さくに声

をかける先生のお人柄、馨欬に接しうる喜びが背景にあると思えます。

次に母校百周年を期しての「京室雪賞」の創設、生徒会活動を顕彰し卒業生に贈るものですが、輝ける母校の星である先生が会長として創られたもの、名譽な褒賞として後進の大切な励ましとなっておりま。更にもう一つ挙げれば、国旗、君が代問題で母校の偏向を憂慮され、是正にいろいろお力尽くしされたことも、知る人ぞ知る隠れた功績だと思えます。茲に厚く御礼申し上げる次第でございます。

さて、さる七月の総会決定に基づいて、現体制は別掲の通りで、肅々と活動を進めております。財政、人員などを考慮し、同窓会として為すべきことは何かということ、左に項目を挙げました。

- 1 総会
- 2 四校合同同窓会
- 3 東京室雪賞の授与
- 4 会報「室雪」の発行
- 5 在京同窓会を右簿の発行
- 6 事務局の充実―青柳、片平両事務局長が激務に倒れられ

第8回古川市内四校合同新年会

日時 平成13年1月21日(日) 11:30~15:00 会場 上野精養軒 (詳細は12頁及び別案内、乞う出席)

在京同窓会メモ

・信陵会館に本会関係者は常勤しておりません。連絡先: 〒115-0053 北区赤羽台4-8-3 菅昇 TEL/FAX 03-3907-0587 会計年度は6-5月、年会費は2,000円です。会の健全運営のため、同封の振替用紙での納入をお願い致します。次回会報第27号は2001年7月1日発行予定、原稿は常時受付。

たに鑑み、事務局長、四委員会と体制を整備しましたが、肥大化の嫌いがあり、簡素化を図った。現体制をもう少し充実したい。

7 会員の拡充―将来の為に若手会員層を増やしたいということ。私達同窓会は祖国、郷土を愛し、母校の発展を願う同志の集まりです。微力ながら私も精一杯力を尽す所存でございます。同窓会皆様のご協力を幾重にもお願い致します。ご意見がございましたらご遠慮なくお寄せ下さい。ご健勝とご多幸を祈り上げ、以上年頭のご挨拶を申し上げます。

「プラタナス」

古川高等学校長 大沼 康哉



日毎に寒さが厳しくなってきましたが、同窓の皆様におかれましては益々清栄のことと存じます。この間まで、赤や黄色に紅葉していた校庭の木々も、何時の間にかすっかり葉を落とし、プラタナスの梢にわずかばかり残った

葉 たい風の中に揺れています。その下で、今日も後輩たちが白い息を吐きながら部活に動んでいます。

古高は創立以来いろいろな時代の変化を乗り越えながら百余年の時を刻んでまいりました。その中のどの一年も貴重な古高の歴史であり、現在の古高の礎となっております。その歴史や伝統を築いてこられた同窓生の数は既に二万名を越え、各界における皆様のご活躍が古高の大きな心の支えになっております。毎年、各地で同窓会や同期会、クラブのOB会等が開催され、活発な交流が続いていることは誠に喜ばしい限りであります。皆様のご活躍に深甚なる敬意を表するとともに、母校に対するご支援に衷心より御礼申し上げます。

去る十一月十日、仙台市の東急ホテルで在京同窓会が開催されました。当日は前衆議院議長伊藤宗一郎先輩や在京同窓会から横山副会長、菅昇先輩もお見えになり、すばらしい会となりました。会で、鈴木俊一先輩(古中37回卒)にお目にかかり、旧制古中在学当時のお話を伺いました。そのお話の一部を皆様にお知らせします。

同窓の皆様は、校庭の陸羽東線沿に、大きなプラタナスの樹が並んでいたことを記憶しておられると思います。昔は、空に向かって大きく枝を広げておりましたが、現在は、きちんと整枝された状態になっています。風格のある太い幹は、古高と共に歩んできた星霜を感じさせます。校舎等がすっかり新しくなり、昔の記憶に結びつくものが少ない本校にとっては大切な財産です。時々傍らに立つて

眺めていると、いろいろな思いに我を忘れることがあります。しかし、「この樹を何時、誰が植えたのだろうか」という疑問を持ったことはありませんでした。ところが幸運なことに、この度鈴木先輩からプラタナスについて何うことができました。先輩のお話により、本校で教鞭をとっておられた山崎先生のご指導で、「作業の時間」にプラタナスの植樹を行ったそうです。偶然にも、プラタナスが古中三十七回生の先輩の皆さんによって植えられ、樹齢も六十年以上になることを知り感激でした。

本校は百余年の歴史を刻んでまいりましたが、その歴史を物語る資料や記録が散逸してしまい、現存するものが少なく、残念に思っています。今回のような情報がありましたらよろしく願っています。

プラタナスは春に芽吹き、秋になれば葉が落ちる繰り返しのように見えますが、その間に年々遅しく太くなり、風格が増してきました。本校も毎年新入生を迎え、卒業生を送り出すことの繰り返しのように見えますが、その間にしっかりと伝承が育ってきたことを同窓会に出席するたびに実感しています。一年一年を大切にしたいと思っています。十月には築館高等学校と築館女子高等学校の統合等も正式に発表になり、宮城県のある学校再編も次第に具体化してきています。本校も大きな転機を迎えています。一層のご指導をお願い致します。

在京同窓会の益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

# 母校の今

## 進路室だより

進路指導部長

笹川 清範

この二年間、学力向上を目指し学習合宿や課外の充実を中心に取り組んできました。これらの取り組みを維持しながらも今年は、進路意識を高揚し、目標を持たせて学習に取り組ませたいということから、いくつかの新しい取り組みをスタートさせました。今回はこれらの取り組みを紹介したいと思います。

五月に、2年生全員による大学見学会を実施しました。生徒から希望を取り、県内の大学はもちろんのこと、山形および岩手の大学を訪れ大学のキャンパスや研究室を見学し、入試担当者から大学の説明をしていただきました。

六月には、同じ2年生を対象に校内で出張講義を開催しました。これは、大学から講師を派遣していただき、同時に八つの講座

を展開し生徒に興味ある講座を受講させるというものです。

また、十月には1年生を対象にした進路講演会を実施しました。最先端の研究の一端を紹介していただくと共に研究者として歩んでこられた講師の先生のこれまでの人生を振り返って話をいただきました。

昨今、どの大学でもオープンキャンパスや公開講座を開いていますが、古川という地域性もあるのか、自ら進んで足を運ぶ生徒は本当に少ない状況です。そういう意味では全員が大学を覗いてみる、講義、講演を聞いてみるということとは、生徒の進路に対する意識を喚起させるいいきっかけになったのではないかと考えています。

今回のこれらの取り組みに際しましてはOBの方々に大変お世話になりました。出張講義では、東北大学農学部助教南條正巳先生(23回卒)、東北学院大学経済学部教授富士華先生(8回卒)、進路講話では、東京大学院農学生命科学研究科今川和彦先生(23回卒)です。お忙しい中、母校の後輩のため時間を割いていただいたことに對し感謝いたしております。

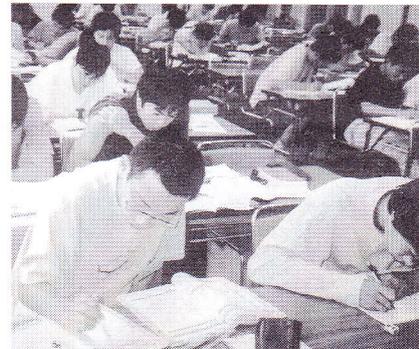
今年の3年生は「どうも落ち着きがない。集中力がない、学力が身についていない・・・」ということに耳をしながら新学年をスタートしましたが、夏休みを境にしてようやくエンジンがかかり受験生らしい緊張感が高まってきています。夜七時を過ぎても蛍雪会館や教室に明かりが灯り勉強に打ち込む姿を見るにつけ、春には進路目標を達成し晴れやかに学び舎を巣立って行くことを願う



第1学年進路講話  
演題「研究の先端で」  
東京大学院助教 今川和彦先生  
農学生命科学研究科

1年生対象の進路講演会

ばかりです。以上、簡単ではありますが進路部からの報告とさせていただきます。



学習合宿「夏を制する者は・・・」

## ソフトボール部 活動報告

ソフトボール部顧問  
野中 淳

昨年六月の県高校総体において、宿敵白石工を4対3で下し五年ぶり九度目の優勝。岐阜県金山町で行われるインターハイに駒を進めた。

八月五日、古川を大型バスで出発。十時間余りをかけて現地に到着した。私自身は六年ぶり、生徒は初めての全国大会出場ということで大変緊張していた。翌六日、北海道代表の富良野高校と練習試合を行い大差で破り、やっと私、生徒共リラックスできるようなになった。

七日、盛大に行われた開会式に参加。八日は二回戦から出場ということもあり、優勝候補といわれるチームの試合と我々の対戦相手のチームの試合を見学した。九日、いよいよ試合、長野県代

表の県立伊那弥生ヶ丘高校との対戦であった。本大会屈指の左腕、苦戦が予想された。本校は先攻、予想通り抑え込まれ初回三者凡退、本校先発佐々木もそれに引けを取らない三者三振の立ち上がり、投手戦かとも思われた。しかし次の二回、ソロホームランを浴び、続く四回には、四球、失策に長打がからみ一挙7点を取られてしまった。

後半絶対につかまえることができたからと励ましたものの8点のビハインドは大きく、五回に2点を返したもののその後が続かず8対2で敗れてしまった。相手は十一年連続で出場しているチーム、我々も異外に遠征し、力を養ってきたものの経験の差が出たものと思う。これを機にこれから何度も出場し、頂点に立てるよう精進していきたい。生徒も私も次の目標に向け気持ちを新たにしたい。

その余韻もおさまらないうちに発熱、下痢の症状が出たものがたくさん現れた。夏休みに入ってからほとんど休むことなく試合や練習を行ったのでその疲れが出たのではと思いい、古川に帰って来た。しかし、その後ほとんどの生徒が同じ症状になり、中には入院するものもいた。詳しく調査したところ、七日の夕食の鶏肉にカンピロバクターという菌が入っており、それによる食中毒ということが判明した。今思えば、あの一挙7点奪われたのも少なからず影響があったのではと思われる。何とも後味の悪い大会であった。しかし、宿舎をはじめ大会関係機関が誠意を尽くし、対応してくれ、我々の「」を十分に汲んでくれた。私共

はじめご父兄も感謝している。大変勉強させていただいた。

その後八月末、本校生徒五名が中心にチームを組んだ宮城選抜チームが東北ブロック予選で勝ち進み、十月に富山で行われた国体に出場、インターハイの悔いを晴らすべく頑張り、ベスト8進出第五位、得点27.5点を稼ぎ、宮城県の総合成績六位に貢献した。

昨年は久しぶりに好成績を残すことができ、今後の活動に大きな影響を与えたと思う。勝利を目指すのは当たり前であるがそれ以上に、文武両道を実践し、自信をつけ、それを後の世代に伝えることが大切と思っている。

古高ソフトボール部出身の先輩方が教員を始め全国各地でリーダーシップをとり、活躍しておられます。まさに我々の目標です。この成績を取めたものもとりその後の後輩たちも、自信を持って社会に出、活躍してくれることを願っています。また私自身も努力したいと思っています。



インターハイ(岐阜)出場

古高生の大討論会

生命めぐり討論白熱 古川高



生と死について意見を出し合った大討論会—古川高

40 高校で文化祭 硬派路線が台頭

「生命とは・・・だ！」

古高祭では、これまで著名卒業生による講演会が催されてきたが、平成十二年度は、新しい試みとして、討論会が企画されました。

顧問の先生方に「」を促されるほどでした。ステージは、この企画の中心で美術部員でもある和田君（2年生）がデザインしました。

県内の高校は文化祭「ス」。二百は、約四十校で開かれたが、目立つのは、硬派の企画。少壮派の多発、就職難、身近な環境の悪化などを反映して、討論会発表会などに真剣に取り組んだ高校生が多かった。

現在我が母校の二十八勝十敗三分けと、大きく勝ち越しておりますが、定期戦での勝敗が総体での勝敗と勝るとも劣らぬ重みがあることは、両校生徒が思いを同じくするところだと思えます。

宮城県古川高等学校生徒代表 岩本 英敏 「兄弟校・宮城県古川高等学校からのお祝いの詞」



応援団エール交換

の定期戦の重みを物語っていることでしょう。一昨年から「友情の炎」と名づけられた聖火が、大会中燃やされておりますが、炎のように熱い友情が永久に燃え盛っていくことを願っております。



我らの夢は、古高の庭に芽生えて育ちゆく

宮城県古川高等学校

ホームページ http://furuکو.myswan.ne.jp

所在地 989-6155 宮城県古川市南町2丁目3-17

TEL 0229-22-3034 FAX 0229-23-4621 ぐ質問、ご意見はこちらまでお願いいたします。 furuka\_h@sn.myswan.ne.jp

# 本部同窓会だよ

## 新年の挨拶



古高同窓会会長  
野村 喜太郎

在京同窓会の皆様にはお変わりなく新世紀への年明けを迎えられたことと存じ、お慶び申し上げます。  
母校に対し皆様から種々ご協力を頂いておりますが、特に東京笛雪賞を毎年授与され、古高生へのよい刺激と励みになって居り、深く敬意を表します。

さて、日本では景気の低迷が続いて居り、古高でもまともにも影響を受けて居ります。財団法人古川高等学校育英会は、ご遺族が練馬区に住む旧中第五回卒の亀谷徳兵衛氏が母校生徒の育英資金としてご寄附された千五百万円を基本財産として、昭和二十二年より利子を以って成績優秀な各学年一人に差上げて居ります。金融機関の倒産、合併等して低金利等で育英会役員の方々を悩まして居ります。利率の少しでも多い方を望むと元本保証無し、元本保証を望むと低利率の率です。寄附者亀谷氏の意思を尊重し、元本保証で低利率のもので運営して居り、生徒への育英金額は

減少し、雀の涙ですが先輩より後輩への激励として、生徒やご父兄にも受け留めて頂いて居ります。

新しい校名看板の揮毫は先輩の伊藤宗一郎前衆議院議長にいただき、感激致して居り厚く御礼申し上げます。さてその前の旧校名看板は田尻町の旧十九回卒の荒川直一郎氏であったことは前回の会報でご報告致しました。その後の調査で、揮毫した方は昭和二十八年より昭和三十一年八月まで宮城県副知事をなさった早坂冬男氏(旧中十九回卒)であったこと判明いたしましたのでご報告申し上げます。

古高では長く続いた一学年八学級が少子社会になって七学級となり、平成十三年度から六学級となり、この次の段階では男女共学になる予定です。生徒数の減少により同窓会会費収入が少なく、事業の縮小も余儀なくなることを心配致して居ります。又クラブ活動の部員も少なくなり、従来の活動が出来なくなること懸念されます。

新世紀早々、古高は社会の仕組みの中で難しい対応を迫られることになり、伝統ある古高のこれからの進む道にご指導を賜ります様お願い致します。

在京古高同窓会では古川市内四校合同新年会を企画運営されており、今年で第八回を数え「四つ葉の仲間たち」の歌も昨年できて懇親を深めて居りますとのこと、時代の先取りと感心して居り男女共学の方向づけにも大いに役立つものと思われま。

在京古高同窓会の益々のご発展を祈念し新年の挨拶と致します。

## 同窓会事務局だよ



事務局長  
狩野 宏史

在京同窓会の皆様、明けましておめでとうございます。ふるさとを離れて日夜ご活躍のことと拝察申し上げます。

「我が東北の大原野」大崎の地も、東北新幹線や東北縦貫道などの交通網の整備、さらには、マスコミやインターネットをはじめとする情報化社会の進展の中で、百万都市仙台圏の一部に組み込まれた感があります。

また、少子化社会を受けて、私立高校はまさに校運をかけて特色づくりに励んで居ります。これらのことは、古川高校を含めた大崎地区の公立高校へ大きな影響を与えています。進学を希望する地元の中学生の視野は、大崎地区の公立高校だけでなく、仙台圏の特色ある公立高校や私立高校へ広がっております。このような状況の中で、我が古高は、生き残りをかけて「特色」を出して行かねばなりません。これが二十一世紀最初の大きな課題となっております。在京同窓生の皆様、名門復活までのご指導ご鞭撻ほど、宜しくお願ひ申し上げます。

平成十二年度は「良き師」「良き先輩」「良き友」という古川高校の

恵まれた財産を十分に活用させていただきます。

二年生の「大学見学会」および「大学の出張講義」では、複数の大で、古高出身の教授助教から直接お話を伺うことが出来ました。また、一年生の「進路講話」では東大助教授の今川和彦先生が来校され、「意味を持って生きることの素晴らしさ」をお話いただきました。いずれも、在校生は感銘を受けたようでした。図書部主催の文化講演会には菅野照雄先生(私たちは敬慕の気持ちを含めてカンテラ先生と呼んでいました)を講師にお招きし、「三國志の世界」という題でご講演をいただきました。カンテラ先生はご退職をされて数年経ちますが、古典についての博識は現役時代そのままでした。また、小牛田の「古典朗読」の指導もされており、この会もすでに十年を越えて行われているそうです。

●「二十年版同窓会名簿」が平成十二年十一月三十日に発行されました。これを受けて、複数の支部から「支部ごとの名簿」が欲しいという声が出て居ります。これにつきましても、支部ならびに業者と連絡をとりながら話を進めて参りたいと思ひます。

●高校第二回卒業生の「二期会」が九月二十四日に四十回目の同級会を催されました。第一回同級絵画が昭和三十八年だったと伺っております。その代表である片瀬さん、内海さん、成田さんが来校され、「育英資金に」と十五万円を母校にご寄附されました。「二期会」の皆様からは、これまでに「校舎の時計」「校内の庭木」など、度々(ご)を頂いております。ご厚意

に拝しまして心から御礼申し上げますと共に、在京同窓会の皆様へのご紹介申し上げます。

●国立天文台ハワイ観測所には、口径八・二mの世界最大の反射望遠鏡が設置されています。これは「すばる望遠鏡」と呼ばれ、三菱電機が制作しました。このプロジェクト事業の中心人物として、本校昭和四十八年卒業の三神泉さんが大きな仕事をされました。三神さんのこの偉業に対し、同窓会として心からの賞賛を申し上げますと共に、機会があれば貴重な体験を、皆様と一緒に聴きたいと思ひます。尚、三神さんは在学時代、吹奏楽部で活躍されたそうです。二十一世紀最初の年、平成十三年が在京同窓会にとりまして、幸多からんことを、宮城の地大崎よりお祈り申し上げます。

### 本部同窓会「新年会」のお知らせ

日 平成十三年一月十四日(日)  
時 13:00~17:30  
場 所 古川市内「芙蓉閣」  
特別講演 古川市長  
佐々木謙次氏(高九回卒)  
その他 古高現役の吹奏楽部の演奏披露があります。  
伊藤宗一郎前衆議院議長が出席予定です。  
ふるってご出席下さい。



会員による自由投稿

古高生の錯誤

亀井 明 (55年卒)



前回、昭和三十年代後半からの若年人口の減少に伴う生徒の質のばらつき拡大、それに対して学校側が無策だったため現役合格者が減少し、結果的に学校への信頼が失われたことを述べた。生徒が「学校の勉強」をしなくなったのは直接は古高の授業を信頼していなかったことが原因ではある。しかし、それならば自分で独自に勉強すればいいわけだが、そういった雰囲気はあまりなかったように思う。

・入学前後のギャップとメンタリティの変化

私自身、中学時代に「古高は進学校」「優秀な人が集まる」「授業についていくのが大変」「古高に入学すれば大学に合格できる」と聞かされていたが、入学と同時に古高に対して「こんなことで大丈夫なんだらうか？」という印象に変化した。入学時、校内に大学合格者名が貼り出されていたが、現役で合格しているのは実に少数だった。古高は文理予備校の予備校だ、と

言われていた一方で、古高は浪人すると強い、とも言われていた。この先生に教わると大学に受からない、と言われていた先生が複数名いた。生徒に対して有無を言わせない影響力をもった先生はほんの一部であった。ちょっと前の先輩方には信じられないことかもしれないが、二年、三年になって「文系」「理系」のクラス分けはなかったし、もちろん「国立」「私立」の区分けもなかった。また、通常の試験の順位の貼り出しも当時は既になかった(生徒を順位付けすることが良くないという左翼的な発想か?)。そういった環境は生徒側からは動かせるものではない。また、生徒自身は過去の古高との比較材料を持っていないので、目の前の古高に対して「古高は(昔から)こんなもの」と思うだけである。そんな中で生徒側のメンタリティに変化が起こる。「学校の勉強は受験に役立つので、本番の受験勉強は予備校に行つてからやればいい」というものである。また「受験勉強による灰色の高校生活は送りたいくない」という思いから、自分で独自の受験勉強をしようとしてもない。そうして「高校三年間を(勉強せず)有意義に過ごし、予備校の一年で集中的に受験勉強して大学に合格」というもつとも楽なシナリオになっていく。

・「潜在能力」と「集中力」

そういったシナリオが果たしてそのとおりにいくのかどうか?古高生はそのことに心配しては心配してはなかった。自分には「潜在能力」と「集中力」があるから、というの

がその理由である。詳しく言えば、「普段勉強してなくても」「本気を出せば」「短時間で」「勉強できるようなになる」ということである。その根拠を示すために多くの古高生が行っていた方法があった。それは「なるべく勉強しないこと」である。実際、「いかに勉強しなかったか」を仲間内で競い合い、「全く勉強しないでこれだけだから(潜在能力は)すごいよ」とお互いに優れた潜在能力を認め合っていた、というのがよくある構図だったと思う。これにプラスして、「運動部で培った集中力を勉強で発揮すれば短期間で実力が上がる」といった思い込みが重なっていた。スポーツの奨励自体は良いことであるが、スポーツにおける集中力が勉強の不足をカバーできるかのような誤解を生んでいたように思う。こうして「優れた潜在能力」+「培われた集中力」により、古高生の多くが高校で勉強しなくても大学に合格できることに疑いを持たないという、錯誤に満ちたシナリオが完成する。逆にいえば、自分の能力の限界を知ることを恐れていたともいえる。

・錯誤の背景

多くの古高生が一度も顕在化していない自らの潜在能力を信じていることができたのはなぜなのだろうか?私ができるのはなぜなのだろうか?環境万端の風潮がその原因だったと思う。つまり「潜在能力に差はなく、環境が能力を決める」とか「どの子供も無限の可能性をもっている」といった考えが、親や生徒へ「無限の可能性(≠潜在能力)がある」と刷り込まれていたのである。こ

のことによって、生徒自身の潜在能力の存在を誰も否定できない雰囲気につながった。また、中学時代、勉強しなくても優等生だったことが「俺は本来できる人間」という心理的根拠につながっていたと思う。

・「空き時間」のマイナス効果

このような状況の中、三年になると「空き時間」があった。これは単位の導入により、最大週十一コマ(一)まで授業のない「空き時間」として自分に必要な勉強に使えるというものであった。特に私立文系希望者は最大限空き時間を設けていたケースが多かった(理数科目を全く選択しない)。一コマというのは週三十四コマの授業の中でいえば三十%以上である。この時間を有効に利用すればそれなりの効果が期待できたと思うが、右記のような状況下では、単に授業時間が足りないのと同じマイナスの効果しか生まなかったようだ。

・卒業後

さて、卒業後、自らの「潜在能力」と「集中力」を存分に発揮する場であるはずの予備校ではどうだったか?多数が浪人していたため、古高出身者同士では古高的錯誤の日常から逃れられない。結果的に予備校に行つてからも古高時代と同じ「潜在能力」「集中力」を言い訳にして勉強しないこともよくあったようだ。高校時代に勉強していなかったため基礎学力に欠けるため授業についていくのが大変なケースも多々あったようだ。その際、自分が高校時代勉強しなかったこ

とを棚に上げ、「予備校では古高で教わらなかつたことがほとんどで、やっぱり古高の授業は役に立たなかつたんだ」という妙に屈折した思いを持った人間もいたはずである。

・別の要素

経済的に東京の私立大学にやることに親にとつて重い負担となり、私立ならば仙台までという実質的な制約も少なくなかつたと思う。また少子化の関係で、生徒の中で長男が多数を占めるようになり、親としては長男を遠くへ行かせたくはないという思いもあつたはずである。また本人からすれば、国立ではなければ仙台どまりということであれば、必然的に選択肢は限られてしまう。そうなれば、そんなに勉強しなくても、という気になつてしまつたのもしかたないことである。

・最後に

「自分の実力はこんなものではない」という思いは、いい意味で前向きなエネルギーとなり得る。しかし、自らの限界を知らずして、またそれを超える努力をすることなしに能力は向上しないのも事実である。自分の限界を知ることが、ある意味つらいことではあるが、それは自分を広げる大きなチャンスでもある。高校を出て二十年以上上たつて痛感するのは、自分の限界を知り、一つ一つそれを乗り越えていくことの積み重ねがいかに大事かということ、またそのような機会を自ら作り出せるかどうかということである。

平成12年度総会報告

新会長は高橋淳夫氏、伊藤会長は名誉会長に

在京古高同窓会の平成十二年総会は七月二十日(土)午後二時から「神楽坂エミール」で開催された。同会場は今回が四度目であった。

伊藤会長の「後進に道を譲りたい」という辞任の弁を受け、役員改選も行われた。

総会次第、十一年度事業報告・決算報告、十二年度事業計画・予算を掲載いたします。

総会後の講演は佐々木一司氏にお話いただいた。

引き続きの懇親会はなごやかに行われたが、今回は更なる出席者を望みたい。又、健全運営のためにも年間二千円の会費納入を切にお願いたしました。

講演について

佐々木氏は、会報二十五号で紹介のように、日本共産党の幹部として赤旗の編集局次長を歴任された方で、氏の経歴は、古中・古高の歴史の中でも異色であります。

佐々木氏の講演要旨を次にご紹介しますが、その経歴の先入観とは逆に、政治的・独善的な面はなく客観的であり、学識の深さを感じさせるものであります。

古中・古高同窓生の幅の広さと多才な人材の豊かさに改めて感じ入るひとときでありました。(春田)



佐々木 一司氏



民族自決権について

古中20年卒 佐々木 一司

二十世紀の歴史を、民族自決権を縦糸にして巨視的に見てみる。民族自決権とは民族の大小にかかわらず、自分の運命を自分で決定できる権利のことである。

十九世紀までは、それは欧米諸国にだけ適用された。植民地、従属国には認められず、分離独立運動等は内乱とみなされ、他国がそれを支援したりするのは内政干渉とされた。

二十世紀に入り、それは地球上のすべての民族に与えられ、逆にこの運動への抑圧は内政干渉とみなされるに至った。

この偉大な根本的变化を促したのは、まず、帝政ロシア内の従属国に分離独立を認めたと一九一七年のロシア革命であった。ついで、第二次世界大戦後の植民地、従属国の解放運動の嵐のような発展であり、さらにこの権利を不動の国際法原則にまで高めたベトナム戦であった。たしかに、まだ逆流も弱点もあるが、自決権の承認は不逆流な流れとなった。この百年の偉大な変化は、歴史は無為に流れてはいないことを教えている。

平成11年度 決算報告

平成11年度 活動報告

平成11年6月1日～平成12年5月31日

<収入の部>

Table with columns: 科目, 決算額(円), 予算額(円), 増減△, 備考. Includes items like 年会費, 特別会費, 広告料, etc.

<支出の部>

Table with columns: 科目, 決算額(円), 予算額(円), 増減△, 備考. Includes items like 会議費, 印刷費, 事務用品費, etc.

次期繰越金 東京 支部行 郵便局 印 金 203,463.8円 1,559,289.0円 111,134.0円 会計監査の結果、以上の報告書の通り 間違いありませんでした。平成12年6月18日 監事 青沼 康男 監事 佐藤 清勝

Table with columns: 年月日, 活動内容, 場所. Lists activities from June 2011 to March 2012, including general meetings and branch events.

総会出席者一覽

Table listing attendees for the general meeting, including names, addresses, and graduation years.



若手出席メンバー



久しぶり



平成12年度 予算

<収入の部>

科目	予算額(円)	前年実績(円)	増減△	備考
年会費	1,400,000	1,442,000	△ 42,000	7001 @2,000
特別会費	1,600,000	1,600,000	0	総会・新年会費
広告費	400,000	438,000	△ 38,000	企業・個人広告
寄付・祝儀金	200,000	215,090	△ 15,090	総会・新年会祝儀ほか
雑収入	3,000	4,551	△ 1,551	預金利息ほか
収入計	3,603,000	3,699,641	△ 96,641	
前期繰越金	1,871,054	1,858,256	12,798	
合計	5,474,054	5,557,897	△ 83,843	

<支出の部>

科目	予算額(円)	前年実績(円)	増減△	備考
会議費	1,500,000	1,575,940	△ 75,940	総会・新年会・役員会費
印刷費	600,000	755,741	△ 155,741	会報・案内・名簿
事務用品費	150,000	190,959	△ 40,959	コピー代・文具等
事務経費	50,000	52,800	△ 2,800	年間契約費・会議資料
通信交通費	400,000	648,811	△ 248,811	電話・はがき・交通費
広告宣伝費	0	0	0	
庶務費	200,140	109,140	90,860	東京出張費・旅費
組織強化費	200,000	347,452	△ 147,452	幹事会費用ほか
本会特別支出	0	0	0	
雑費	50,000	6,000	44,000	
支出計	3,150,000	3,686,843	△ 536,843	
次期繰越金	2,324,054	1,871,054	453,000	
合計	5,474,054	5,557,897	△ 83,843	

平成12年度 活動計画

平成12年6月1日～平成13年5月31日

年月日	活動内容	場所
平成12年		
7月1日(土)	役員会(第1回)及び会報第25号と総会案内発送	信陵会館
7月30日(日)	総会・講演会・懇親会開催 講師 佐々木 一司氏(S20年・22年卒) 「民族自決権について」	神楽坂エミール
8月13日(日)	同窓会本部総会出席(会長予定)	古川市
12月23日(土)	会報第26号及び四校合同新年会案内発送	信陵会館
平成13年		
1月初旬	本部同窓会新年会出席	古川市
1月21日(日)	「第8回古川市内四校合同新年の集い」開催 (幹事校古川工業)	上野精養軒
3月初旬	古高卒業式並びに「東京出張賞」表彰式出席	古川・古川高校

◎役員会：  
年間5～6回開催予定(信陵会館)

◎四校合同幹事会：  
新年会にむけて、9月13日(第1回)から開催日(1月21日)までの間に4回程度開催する(古川事務所)。

◎その他：  
形こう会等別途計画案件は未定。

在京古高同窓生の皆様、明けましておめでとうございます。皆様には益々ご健勝で新春をお迎えの事とお慶び申し上げます。

日頃会員の皆様には何かと同窓会活動にご協力を賜り厚くお礼申し上げます。去る七月の同窓会定時総会で役員改選が行われ、図らずも今回私が副会長に選任されまして、その責任の重さに身の引き締まる思いでございます。お引受けした以上は出来る限りお手伝いをさせていただきますと思って居ります。同窓会活動もいかに多くの同窓の皆様が同窓会に関心をもち、行事に出席してみようと実行



副会長としての抱負  
副会長 横山 榮治

していただく事が一番大切なことでありたい。そのためにはいろいろ創意工夫しなければなりません。前から幹事会では何時も話題になり苦労しているところがあります。

在京古川市内四校合同新年会もご案内の通り行われますので、是非上野までお出かけいただきたいと思っております。同窓の皆様方のお顔を拝見してご懇談する事はなによりでございますので、ご協力下さいます様お願い致します。

又、同窓会について何なりとご希望・ご意見等ご遠慮なくお聞かせいただきたくと思っております。意のある所をお汲み下され、ご支援ご協力下さいます様お願い申し上げます。

(編集注・三名の新副会長に抱負をお願いしましたが、春田・曾根両氏には別の形の原稿をいただきました。)

在京古高同窓会新役員

自：平成12年6月1日  
至：平成14年5月31日

区分	氏名	卒年	区分	氏名	卒年	区分	氏名	卒年
名誉会長	伊藤 宗一郎	昭16	幹事	伊藤 守治	昭9	幹事	佐々木 武麿	昭35
会長	高橋 淳夫	昭17	幹事	小山 豊	昭15	幹事	佐藤 文彦	昭36
副会長	横山 榮治	昭20	幹事	渡辺 三男	昭18	幹事	中鉢 泰平	昭37
副会長	春田 紘輔	昭27	幹事	高橋 昭典	昭20	幹事	渡辺 将郎	昭38
副会長	曾根 研一	昭30	幹事	門脇 健	昭24	幹事	浅野 仁也	昭40
監事	青沼 康男	昭19	幹事	遠藤 惇	昭26	幹事	佐藤 啓三	昭40
監事	佐藤 清勝	昭27	幹事	谷地 森 祝	昭26	幹事	菊地 務	昭41
顧問	水沢 幸七	昭5	幹事	大内 史彦	昭27	幹事	小杉 誠輝	昭41
顧問	多藤 省徳	昭9	幹事	渡辺 道雄	昭28	幹事	高橋 修一	昭44
顧問	佐々木 喬	昭12	幹事	佐藤 廣	昭29	幹事	小嶋 進	昭47
顧問	今野 榮喜	昭16	幹事	早坂 清吉	昭29	幹事	岡崎 裕哉	昭50
顧問	半田 寅	昭22	幹事	門脇 敏明	昭30	幹事	菅原 博之	昭51
顧問	遠山 仁一	昭25	幹事	渡辺 吉郎	昭30	幹事	早坂 時男	昭51
事務局	春田 紘輔	昭27	幹事	萩沢 法雄	昭31	幹事	浅野 勝弘	昭53
公費	菅 昇	昭27	幹事	佐藤 公哉	昭32	幹事	亀井 明	昭55
公費	千坂 孝夫	昭37	幹事	佐々木 光一 路	昭33	幹事	尾形 俊幸	昭56
公費			幹事	穴戸 志智	昭34			

\*幹事の変更は随時ありうる。

# 自由投稿

## 自家農園での栽培の喜び

30年卒 渡辺 吉郎

今年は一坪半程の庭の空間に夏野菜を栽培し、野菜の自給自足の生活をしようと決心し、昨年の暮れより土作りを始め、台所のゴミ、腐葉土、魚糞を土中に埋め五ヶ月待ちました。四月二十五日苗キュウリ三本、ナス三本、トマト三本、ピーマン三本を購入し、インゲン十粒ほどまきました。投下資本約千円でした。

収穫が終わるまでの管理は大変でした。朝晩の散水、雑草取り、追肥と手入れすればするほど愛情がわいてきました。

最初の収穫はキュウリ一本、ナス一個、ピーマン三個。夕食のテーブルに、新鮮で色艶がよく、各々の香のある野菜が並び、久方ぶりにその真髓を妻と二人で味わいました。これで少しは私達の命が伸びるかもとは、妻の言葉でした。

そして今年の収穫合計は、キュウリ六十三本、インゲン六三三本、ナス一五四本、トマト大三十一個、ミニ六三九個、ピーマン二七四個と思わぬ収穫数量でした。



## 在京古高柔道部

### OB会総会

27年卒 春田 絃輔

旧古中・古高柔道部出身者が関東周辺で約四十名登録されており、OB会ができてから十年になる。

例年十二月に忘年会と併せ総会を開催してきたが、仙台、古川からも出席する人達がいるので、今年はくりあげて、十一月十八日八重洲駅前の庄屋で、飲み放題、食い放題で開催された。

会長は、戦後の柔道部創設者である春田が務めている。今年の出席者は二十名で、主な顔ぶれを挙げると次の方々である。(順不動) 仙台から宮城県柔道協会副会長で三十年卒の堀越五郎七段、古川

野菜さん、命の泉ありがとうございます。来季もよろしく。

から現古高柔道部師範を務める五十年卒の小林信之(真大会チャンピオン)を迎え入れたほか、在京としては旧古中二十二年卒で東北大王将時代七帝大第一回大会優勝の半田実顧問、横山栄治副会長、若手では四十四年卒で現在も神大総監督で頑張っている木村仁、同じく神大五十二年卒で、この会の世話役をしている早坂時男君等である。

開会は、本部OB会長でもある堀越氏の挨拶で始まった。飲み放題の会場はまたたく間に感動と興奮の場となり、往年の猛者達は、あつという間に昔の古高柔道部になっていた。年齢を忘れ、母校の想い出にひたる若者の姿でしかない。この場の豪華な顔ぶれと酒の量、食べっぷりは他に類をみない風景ではないかと思えた。

今年、特に三月卒業したばかりの新人二人が参加して盛り上がりは今までにないものとなった。各々自慢話やら、現況やら語り尽さない二時間余の時間を惜しみつつ、来年の再会を誓って散会した。

## 紅葉と温泉の旅

41年卒 小杉 誠輝

十一月二十五日、二十六日の二日間、箱根湯本は名勝玉簾の瀧で有名なホテル天成園一泊の昭和四十一年卒同期会、親睦の旅を行いました。

新宿駅小田急ロマンスカー改札口に集合し電車に乗り込むや、座席を向かい合わせにして、早速持参した缶ビールを飲み始めた。今回の同期会を実施するに当た

り三十名に案内状を送り、十人の参加者があつたが、仕事の都合で二人の取り消しがあり、八人の参加となった。

電車は一時間二十分程で終点の箱根湯本に着いた。全員すっかりご機嫌良くなり、途中コンビニに寄ってしまつた酒を仕入れ、ふらふらと徒歩でホテルに到着した。早速浴衣に着替え、全員で露店風呂に入った、裸の付き合いという訳だ。

そして、豪華な料理で楽しみな宴会が始まつた女気のないおやじばかりの楽しい宴、味にこだわる頑固な寿司屋、世界を駆け回る貿易商、赤字清算に頑張る現役国鉄マン、掛け持ち大学講師、家畜の病因を研究する博士、大手会社重役の秀才、日本の雀士と自認する警察官、地域医療に励む病院職員と職業はまちまちだが同じ学校で一緒に学んだもの同志、バブルの崩壊とリストラの嵐に負けない雑草魂の団塊時代の戦士達、仕事は違うけど気持ちは一緒という事で酒の量と話題は尽きることはありません。露店風呂では下着の紛失事件があり、我が同級生警官がみごと解決したニュースもありました。

翌日は仕事の都合で帰京した三人を除き、五人で十一月とは思えない暖かい晴天に恵まれ、紅や黄色に色付いた山間を、スイッチパック方式で満員の乗客を乗せて急勾配を昇る箱根登山電車で終点の強羅に着き、今が盛りの紅葉を満喫して来ました。そして再会を約束し家路に着きました。

## 在京古高同窓会

### 第五十一回総会に出席

副会長 横山 榮治

在京古高同窓会第五十一回総会が、去る十一月十日(金)仙台東急ホテルにて約九十名出席で開催されました。その中で役員改選が行われ、三浦会長代行(高一回卒)が新会長に選任されました。

七時より仙台フィルハーモニー管弦楽団千石進氏(高22回卒)によるクラリネット演奏(ピアノ伴奏三上真奈美さん)、皆さんの知っている名曲が部屋中に流れ、クラシック演奏の一時を楽しみました。懇親会も乾杯、来賓祝辞、校歌斉唱と和気藹々で、皆さんなかなかムードに過ごしました。

伊藤宗一郎在京古高名誉会長もお見えになり、ご挨拶をいただきました。来賓は、大沼古川高校校長、野村同窓会事務局長、佐々木古川市長、星中新田町長、伊藤色麻町長、鈴木古高吹奏楽部OB会会長、在京古高同窓会よりは私と事務局の菅氏が出席いたしました。



### 三十年卒同期会

イン 松島

30年卒 曾根 研一

数年前、同期の高橋健三君が母校の校長に就任したのを機に、みんなで盛り上げようということになり、それ以降、同窓会にぞくぞくと集まりだしたのが我々昭和三十年卒。私もそれに同調したひとり。そろそろ還暦を迎えようとする頃だった。

毎日がウィークデーだった元・企業戦士達も、最近では毎日が日曜日という人が段々多くなり、このところ在京同窓会や四校新年会は、我々同期が最大の出席者数になっている。

一年ほど前、約二十年振りに新宿で行った在京の同期会には三十三名が出席。その意気込みは、郷里の同期会にも通じていた。去る十月二十二日に「松島・一の坊」で行われた「卒業四十五周年記念同期会」には七十名近くが出席、その内、在京からも十五名ほどが参加した。

「ヤー、卒業以来だな」「何十年振りかな」  
それぞれが胸に付けた氏名カードを見ている内に往年を呼び起こしてくれる人、どうしても思い出せない人、いろいろだった。

会の冒頭が写真撮影、そして司会者から「校歌斉唱の指揮は、東京から参加してくれた曾根君に」と思ひもかけぬ指名を受けたのは、予期してなかっただけに晴れ舞台(?)の気持ちだった。在京では経験しているが、今回はゲスト気分(?)だったものだから。

続いての物故同期生黙祷のときは、本来だったらこの指揮は、古高時代に合唱団のリーダーだった故・鈴木直哉君が務めただろうにと、彼を偲んだのだった。

あとは、高校時代の思い出に触れながら、四十五年の空白を埋める会話が延々と続く。宴会終了後

も各部屋で深夜まで、まるで修学旅行の気分だった。

先が不透明な、目標の定めにくいこの時代に、青春時代の潤いを感じ起こさせてくれた郷里の同期生たちに感謝すると共に、又の機会を待ちたい。



第7回同期会 (前列右から3人目が筆者)

### IP制古中第四十五回卒

同級会報告

在仙幹事代表 早坂源之輔

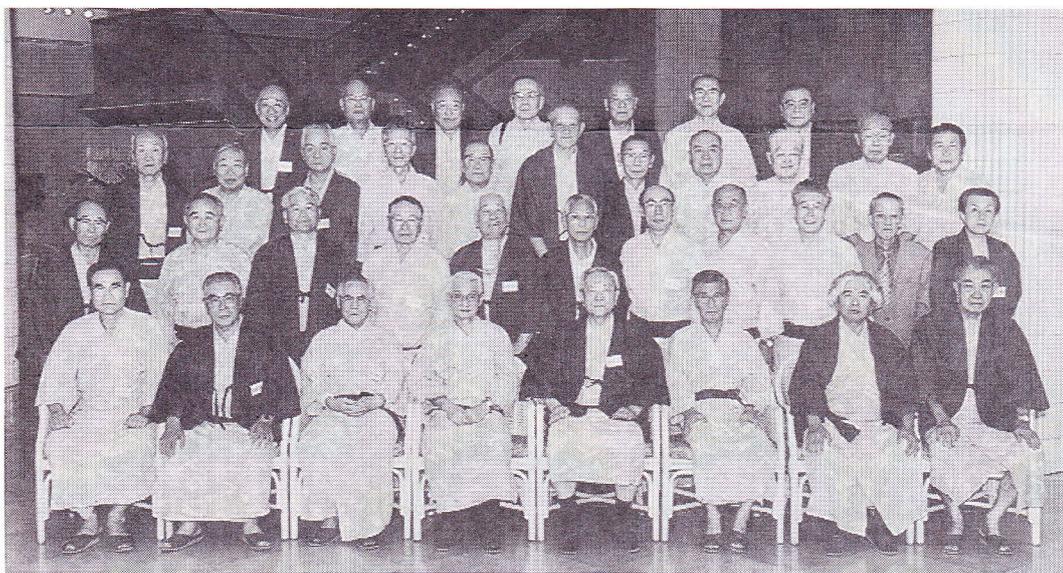
十月一日、松島センチュリーホテルで開催した今回の同級会出席者は、在京者四名、県外五名、大崎地区十七名、仙台地区十二名、計三十八名で予想以上の参加協力をいただいた。

いた。

世相混沌とした昭和二十年、それぞれの人生に向かって飛び立った若者が、古希を迎えた今も素晴らしい出会いの場があり、又、数多くの思い出を持ち続けられているという人間の幸せと欠席者の身を案ずる温かな友情の絆の深さを、しみじみ感じた一夜であった。懇親会場を打ち上げ、それぞれの部屋に戻れば、また夜を徹しての懐古談に花が咲き、貸した借りたも帳消し、泣いた昔が自慢の種に変わるなごやかな討論も続いた。翌日は朝食後、自由解散ということで再会を約し、ホテル手配の送迎バスを利用することもなく、同僚のマイカーに乗り込み松島を後にした。

在京同窓会各位の更なるご活躍と益々のご健勝を祈念致します。

(編集注・原稿は長文でしたが、前回東京での同級会については「蛍雪」掲載済であり、執筆者が在京外であるところから割愛させていただきました。)





### 謹んで新年のお慶びを申し上げます

## 個人広告

二十一世紀明けの新年、おめでとございます。日本と郷土の弥栄、併せて同窓会皆様のご健勝を祈り申し上げます。

昭17卒 高橋 淳夫

さあ、いよいよ新世紀に突入！気分を一新して今を、そして未来をもっともっと大切に生きよう。

昭30卒 曾根 研一

二十一世紀の幕開けにあたり、昭和三十年卒の皆さん、健康に留意し、少しでも明るい、嘘をつかない社会になるよう貢献しましょう。

昭30卒 渡辺 吉郎

夢を追い続ける者、扉が開く！  
夢も希望もあった古高時代、やっぱり良かった。二十一世紀には若さにはかなわないけど、オラホは努力するに優る人はなしで行こう。

昭37卒 中鉢 泰平

三年後の還暦時の百完登に向け、昨年は石鎚・剣山、大山、恵那。今年は八十からのスタート。三月にはタイ。仕事もある。健康なればこそ。

昭37卒 千坂 孝夫

二十一世紀のIT時代にふさわしい若い人が魅力を感じる同窓会にしましょう。

昭41卒 小杉 誠輝

### 散水のことなら おまかせください



お好きな時間に、お好きな量の散水ができます。小さな庭から、大きなゴルフ場まで散水のことなら、ぜひご相談ください。

株式会社 ケイヒン ☎045(453)1621

〒221-0044 横浜市神奈川区東神奈川1-1 Fax.045(453)1610  
E-mail:keihin@keihin-ve.co.jp http://www.keihin-ve.co.jp

### ～当社もおかげ様で、創業20周年を迎えました。～

Century21ハウジングセンターは、世界30ヶ国 6,500店(世界最大)のCentury21加盟店の中で1999年世界第1位、2000年には連続世界第1位に輝きました。



伊藤忠都市開発・伊藤忠商事とハウジングセンターの共同プロジェクト「セントレジャス船場」



100m<sup>2</sup> Leading Company

ハウジングセンター

株式会社ハウジングセンター  
〒154-0005 東京都世田谷区三宿1-13-4

☎03-5430-0021

センチュリー21の加盟店はすべて独立・自営です。

設計/一級建築士事務所東京都知事登録第42734号  
建設業/東京都知事許可(特-9)第107899号  
宅建業/東京都知事免許(第)第41620号  
社団法人日本住宅建設産業協会会員  
古高47年卒 代表取締役 小嶋 進

ケーヨーは情報化時代の未来を拓くパートナーです。  
文書 図面 写真 音声 映像を簡単にC-D-R-O-Mにします。

データベースの入出力・活用 デジタル変換  
コピーサービス 総合印刷 CAD入出力  
文字情報入出力 プリペイドカード



データベース作成支援 完成図書・総合複写/印刷  
代表取締役社長 早坂 清吉 (昭和29年卒)  
本社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-1-6 TEL03-3242-0191  
横浜支店・千葉支店

### 故郷の発展にお力添えを!

- 企業誘致 ●地場産品販路拡大 ●ネットワーク強化 ●情報受発信

## 古川市東京事務所

所長 佐々木 豊 (S43卒)  
副所長 藤本 重吉 (S50卒)

台東区上野1-18-11 西楽堂ビル4F (上野松坂屋南館向き)  
TEL 5818-6432 FAX 5818-6431

### お 願 い !

在京古高同窓会会報“蛍雪”の年2回定期発行・維持にご協力下さい。

- ご存じの通り、1月1日付け、7月1日付け発行
- ① 会員の自由投稿を歓迎いたします。
  - ② 企業広告は1マス1万円での協賛となります。  
①②共、原稿締切りは発行1ヶ月前です。  
(会報への感想もお寄せ願います。)

〒274-0073 船橋市田喜野井4-29-2-204  
千坂 孝夫宛  
TEL・FAX: 047-464-5417



株式会社ハウジングセンター 代表取締役小嶋 進様  
創業20周年、おめでとうございます。

(9月5日、ホテルオークラでの祝賀会。在京同窓会にも案内いただき、数名出席)

税理士 青沼康男  
不動産鑑定士

(昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805  
-0014 TEL 03-3452-2004  
FAX 03-5476-8006

日曜大工園芸用品卸 貸ビル、貸マンション業

株式会社 佐々木商事

代表取締役 佐々木 光一路

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル  
-0035 第一京浜国道沿い京急蒲田駅前  
卸売部 電話 (3739) 2468  
FAX (3739) 7234  
不動産部 貸ビル・貸マンション  
HOT Line 090 32026393

子供は未来の宝、大きく育てよう

福祉・子育て相談 (秘密厳守)

いつでもどうぞ!!

社会福祉法人 エスオーエスこどもの村

理事長 佐々木武麿 (昭和35年卒)

〒193-0841 東京都八王子市裏高尾町991  
TEL 0426-61-8733 FAX 0426-69-5032

「よくわかる環境問題」 発刊

定価1600円

出版社 (株)コスモトゥーワン  
TEL 03-3988-3911

税理士 渡辺 三男 (昭和18年卒)

〒123 東京都足立区西新井本町1-16-12-510  
-0845 TEL 03-3896-2707  
FAX 03-3896-2284

佐藤 啓三

(S40年卒 中新田)

中小企業診断士・ISO審査員・エネルギー管理士

**KGK** ISO (品質・環境)・技術・経営  
コンサルティング・グループ  
株式会社 経営技術機構 所属

〒221 横浜市神奈川区新浦島町1-1-25 テクノウェイブ 100-11階  
-0031 TEL 045-451-2561 FAX 045-451-2490  
自宅 〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19  
FAX 045-953-3894 E-mail FZN04730@nifty.ne.jp



下記のような専門的なプログラムを  
30年ほど手がけて参りました。  
ご用命の際はお気軽にご連絡ください。

(株)インターナショナルヒューマントラベル

〒164-0001 東京都中野区中野2-29-15-204  
TEL・FAX 03-5385-3693 携帯電話 090-851-58033

代表取締役 中鉢 泰平 昭和37年卒業  
社 長

◆異文化社会における多様な学習プログラム

- \*カナダCWES・ホームステイ・プログラム  
(小学生から社会人まで対象)  
～実際に自然や生活を体験しながら、楽しく英語センスを養い、力をつける～
- \*ドイツ・カナダ・ニュージーランドにおける  
福祉施設ボランティア体験学習
- \*大学間、養成機関との交流・学習プログラム (学生対象)
- \*アメリカ、カナダのカレッジ・プログラム (学生対象)

◆国際会議・学会、国際見本市参加等にかかわるお手伝い

- \*モンテッソーリ世界大会、バスタロッツ生誕250周年記念大会、  
国際教育史学会、UNIMA世界人形劇大会、WCCI世界カリキュラム協議会

◆世界の文化・芸術 (音楽/演劇/博物館/衣食住文化/絵画・  
彫刻・陶芸) などへのご案内も手がけて参りました

◆21世紀のための生涯学習プログラム

- \*フレネル・モンテッソーリ・シュタイナー・ダルクローズ  
フレネ・ニール・ドクロリー・コダーイ・ルソーなど世界の教育、保育、  
障害児、福祉に影響を与えた理論・実践に学ぶ研修プログラム
- \*アメリカの幼稚園教育のルーツを訪ねる  
～シュルツ・ビーゴディ・デューイ～
- \*世界各国の環境教育・多文化教育・情報教育の実践を学ぶ研修プログラム
- \*世界各国の長寿社会・生涯学習・福祉コミュニティづくりに学ぶプログラム  
～オランダ・スウェーデン・イギリス・カナダ・  
ニュージーランド・アジアなど～
- \*児童文化・世界への旅  
～赤毛のアン アンデルセン グリム童話 トム・ソーヤの冒険  
フランダースの犬 アルプスの少女ハイジ カリジェ 大草原の小さな家  
ムーミン 木を植えた男 ビーターラビット 若草物語など～

連絡先

国 内/東北・関西・中部・九州・北海道  
諸外国/EU諸国・北米・ロシア・豪州・南米・アフリカ・東南アジア・ハワイ

外資導入：日産はゴーン、日本総理はクリントン

積水工業株式会社

空調・衛生・電気工事

S28卒 取締役会長 金子 康

本社 目黒 (03) 3793-5711 仙台支店 (022) 235-7009

森谷建設株式会社

代表取締役 森谷 侑一

昭和20年卒

〒336-0923 埼玉県浦和市大字大間木2395  
TEL 048-874-2610

# 同窓会活動の一考察 (その二)

副会長 春田 紘輔

九州福岡県に嘉穂高校という県立高校がある。丁度我が母校と似たような歴史の学校である。この高校は柔道が強く、全国レベルの各種大会で何回か優勝の実績を有している。

この高校の柔道部OBが今、東京駅のJR柔道場へ稽古に来てい。その数七人。いずれも卒業後、北大、早大、中大等で選手をつとめた猛者ばかりである。この連中、柔道も強いが酒もまた滅法強く、私とは良く気の合う仲間である。

稽古が終わった後は、必ず隣のミカド食堂で水分の補給をするのも大きな目的の一つとなっている。ここでの会話がまた非常にはずむのである。

話しは、同窓会に及んだ。彼らの在京同窓会は、例年三百人を下ったことはないというのである。

九州人は、伝統的に先輩、後輩の絆が硬く、後輩は先輩を慕い、先輩は後輩の面倒をよくみるという話しは聞いていた。しかし、今どき一校で三百人も集まる同窓会なんて聞いたことがない。私達の古高同窓会は、宮城県内でみれば、高い結束力を誇りとして来たはずであったが、在京同窓会はいつもの百人前後である。数が多いばかりがいいというわけではないが、大勢参加してもらおう方が話しにつながるものである。特に今年の総会は七十人台となり、退潮の始

まりではないかといささか不安とあせりを感じていたところである。

その三百人のノウハウを聞いてみたが、彼らとしては当たり前で、特に努力したということでもないらしいのである。ただ、ちらっと洩らしたのは、就職や進学ばかりでなく、その後の人生すべての面で世話する習慣があるという。これは昔からの伝統であって、特に力を入れてやっている重点事項とは意識しないでやっているらしい。これは、土地の風土として長い伝統の中から自然に育った習慣であって、私達東北人が急に真似しようとしても無理なのかもしれない。

考えてみれば、昔から宮城県人は、成功者の足を引くつばること知られている。(異論もあるがそう聞いたことがある。) 風土的に人間関係を上手に構築できないか、そういう努力が足りなかったのではないかと考えられる。

人間は、実益のないところには集まらないという。元があつて子があるという当たり前のことを習慣の中、あるいは人間関係の中にとりこめばいいだけの話しではないか。今迄の私達は、教養を高めるといふ先に進んだ分野では、それなりの努力をして来たつもりでいたが、同窓会の場でしか得られないものとは何か。これは私達にとつては、いささか重荷であり負担であります。

魅力ある同窓会とは、メンタルなものだけではだめなのかもしれない。直接的な実益につながるものも受け入れる度量が必要なのかもしれない。

しかし、今迄も力のある先輩の数々の実績は、多く聞いていたもので全く欠落していたものとは考えたくない。求める側にも責任はないのかと考える必要もある。先ず世話になった先輩には、絶対に迷惑はかけないという信頼関係がないと成り立たない。それからも、魅力ある同窓会を作るための努力を皆さんの知恵とご理解を仰ぎながら続けて行きたいものと考えております。

名簿整理のために合同新年会  
出欠の返事は必ず下さい  
第八回目を迎えます「古川市内四校合同新年会」への出欠回答は、本会名簿の整理用にも使用いたします。お手数ですが、必ず投函下さる様お願い致します。これにより、より精度の高い、確実なる最新「会員名簿」の発行を目標しております。

右記、二点のご協力を重ね重ねお願い致します。

## 事務局(会計責任者)から

菅 昇



会の健全運営のために

年会費納入のお礼とお願ひ  
十二年度会費を早々と納入いただきありがとうございます。

まだの方は、会報「蛭雪第二十六号」・「合同新年会案内」に同封の振込用紙にて納入下さる様お願い致します。

名簿整理のために合同新年会

出欠の返事は必ず下さい

第八回目を迎えます「古川市内四校合同新年会」への出欠回答は、本会名簿の整理用にも使用いたします。お手数ですが、必ず投函下さる様お願い致します。これにより、より精度の高い、確実なる最新「会員名簿」の発行を目標しております。

右記、二点のご協力を重ね重ねお願い致します。

## ＝お知らせ＝

### 第3回古川市内 四校合同新年会

日 時：平成13年1月21日(日)  
11:30~15:00

・会 場：上野精養軒

・会 費：8,000円

・特別講演：三宅 義信氏  
(オリンピック金メダリスト、  
宮城県出身)

・交通案内：上野駅公園口より徒歩5分



上野公園4番58号  
電話 (3821) 2181

20世紀のある年、  
希望に燃えた青年が  
上野に降り立った  
そして迎えた21世紀初年  
同郷の仲間と楽しいひと時を!

## 編集後記

二十世紀中に子育てが終わった。三月、息子は文字通り巣だって行った。六月、自身は永年勤続の表彰を受けた(単なる年数計算上のことではあるが)。仕事で、五月と八月の二回韓国へ。十月、アジア十四カ国の青少年スポーツ指導者百名八日間受入、十回目にしてカンボジア参加。平和が一番。この間、我が家は内戦状態。

妻の反乱、リフォームの敢行。帰ってみればきれいな我が家。「築二十年、定年まではあと三年、今なら借金もできる、返せる」の読み。自分好みのリビングは「シンブル・イズ・ベスト」に押された。「老いては妻に従え」。おいしい食事がいただける、多少好きなこともできるで十分。

「災い転じて福となる」。空き状態の息子の部屋を専用することとし、パソコンも設置した。職場でも向き合っている故、家に帰ってまでも、という思いではあったが便利は便利。こうして、順調に発行までこぎつけることができた。今回の原稿は一部(特に、長文の亀井論文)はEメールでいただいた。作業現場からすれば一番能率的であり、多用したい。

今回は学校をはじめとして多くの読み応えのある原稿をいただいた。又、いつものことながら企業広告を協賛いただいた各氏に、併せて深謝いたします。

会員の皆様、良き新年を。あなたが東京で希望の第一歩を踏み出した「上野」で一月二十一日にお会いしましょう。